

環境を触媒に街に開き、人を招く場を作る [これからの本社工場のモデル]

- トヨタ紡織グローバル本社 -



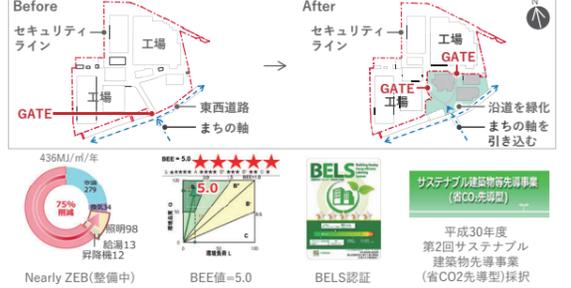
工場を中心に「まち」に開く

豊田佐吉が創業し、グローバル企業として自動車内装部品を主力とするメーカーの本社屋。生産拠点として工場が建ち並び、長らく「車やモノ」が中心となり「まちに閉じた場」となっていた。これからのグローバル企業の国内工場においては、生産拠点を固定せず再構築を常に行っていく必要がある。そして自社内部では完結しない部分が増え、社外との連携が大切である。

社内外の人たちを招き、情報発信をしていくための場をつくるため、敷地境界に置かれていたセキュリティラインを下げて敷地中央にバッファゾーンをつくり本社を配置した。地域のランドマークとなっている豊かな樹木をベースに「社」をつくり、人を中心に置く「街に開いた場」としてワークスペースを設けた。省エネルギーとウェルネス向上に取り組み、CASBEE Sランク(BEE値=5.0)、13,000㎡規模の建物では達成が難しいZEB Ready(BELS認証)を取得、国土交通省サステナブル建築物等先導事業(省CO₂先導型)に採択された。竣工後も整備を進めNearly ZEBに達成をしている。

This is the headquarters building of the global company mainly producing automotive seats which was founded by Sakichi Toyoda. The site with many factories as a production base was a "place closed to the local town" focused on vehicles and products for a long time. However, the domestic factories of a future global company need to be constantly restructured without fixing production bases. Then there will be more parts not completed within a company, which will increase the importance of collaborations with external organizations.

Thus we lowered the security boundaries previously located on the site boundaries, provided the center of the site with a buffer zone and relocated the head office there in order to create a place for inviting internal and external people and offering information. A "Forest" was developed on the basis of the abundant existing trees that have been the regional landmark, which led to creation of a workspace as a "Place Open to Town" focused on people.



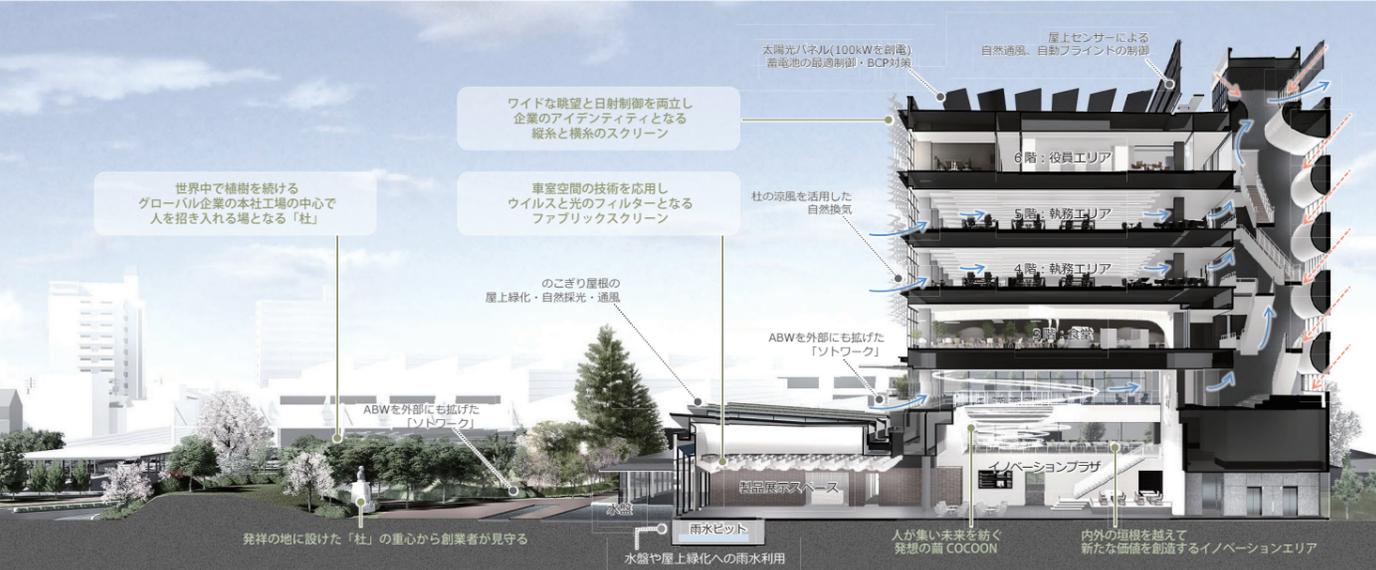
世界中で社を育み人を繋ぐグローバル企業

トヨタ紡織は世界中で森づくり活動を進めており、2050年に132万本植樹の目標として各地域で植樹活動を推進している。NGOなど多くの関係団体と連携し、緑地を生み出すことで、地域と関係構築を行う。グローバル本社における「社」は世界中で森づくり活動を進める社員を結びつける象徴である。



1. 社(もり)と一体の環境装置を企業のアイデンティティへと昇華し Nearly ZEBを達成

1918年の創業以来100年に渡り日本の成長を支えた伝統の継承を目指し、創業時の工場が建ち並び風景を想起するレンガ壁やノコギリ屋根によって低層部を構成した。この先も新たな価値創造を続ける場であるグローバル本社は、眺望を確保しながら日射負荷を低減する「紡ぎ織るスクリーン」・コラボレーションエリアの中心に浮かぶ「発想の繭」COCOONなどにより、この先の100年内外の垣根を超えて「ともに挑む」精神を標榜している。



Nearly ZEBを実現する環境装置



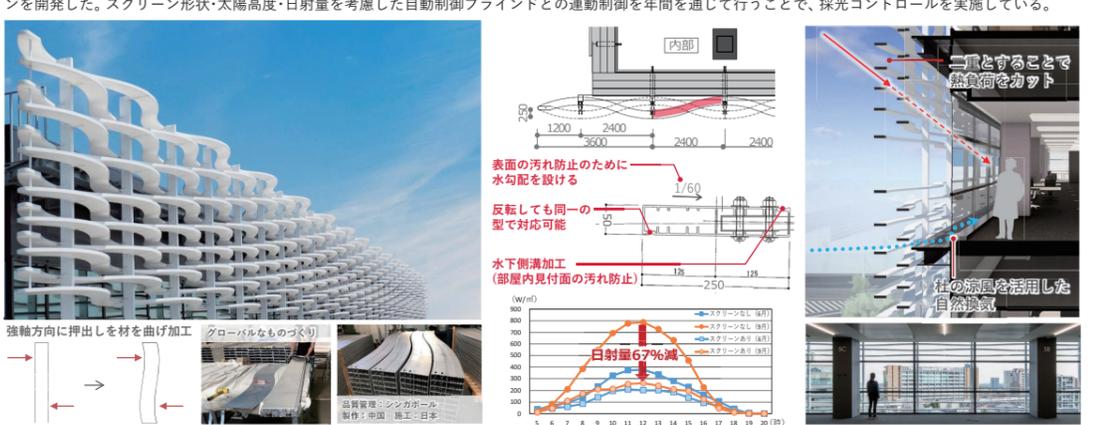
2. 土地の記憶を引継ぐ樹種や風土に合う植生を選定し自然植生に還る刈谷の杜

敷地周辺の樹木は地域住民も長年慣れ親しんできた既存樹木を保存し、活かしながら豊かな緑環境を街に提供する。記念樹をシンボルとして周辺を新たな緑地帯とすることで企業の歴史の糸を紡ぐ。



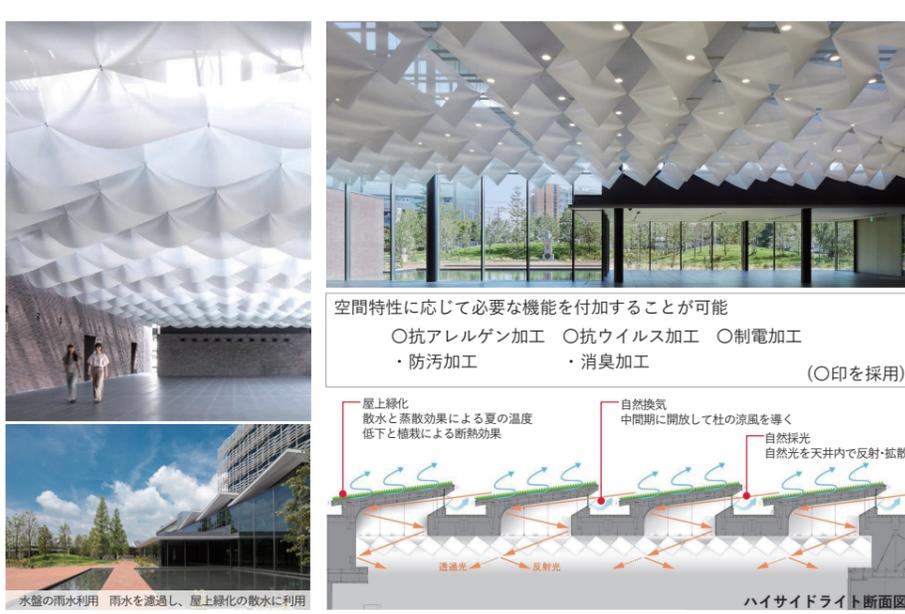
3. ピーク時の日射量を67%削減し日常のブラインドレスと眺望を両立させる立体で紡ぎ織るスクリーン

グローバル本社の顔となる南面には「紡ぎ」ことで形状を作り、風になびくやわらかな生地のイメージとなるスクリーンを設置し最大67%の日射遮蔽機能を実現した。繊維製品を製造する企業のアイデンティティを示しつつ、眺望を確保しながら日射・採光をコントロールする先進的技術として、紡ぎ織るスクリーンを開発した。スクリーン形状・太陽高度・日射量を考慮した自動制御ブラインドとの連動制御を年間を通じて行うことで、採光コントロールを実施している。



4. 人が集う場所は環境を取り込み、自社技術による快適で健康的な大空間

エントランスには製品展示スペースを設け、社の緑や天井からの光をたっぷり取り込む。この空間を他にはないものとするため、自社の自動車内装技術によって人が集まる場所を柔らかな光が降り注ぐ空間自体を技術のアピールの場としている。



5. 未来を生み出す上階に空間を繋ぐ直径13mの光の繭「COCOON」

1階ゲストエリアから2階オープンインベーションエリアをつなぐ吹抜空間の中心に浮かぶ「COCOON」。1.2m長のフレキシブル照明を総計320m(器具数270個程度)組み合わせることで吹き抜け空間の照度をコントロールしている。1本の糸が繭状を描く中で、議論が活性化によるアイデアの孵化をイメージしている。



| 項目 | 内容 | 達成状況 |
|---------------------|--|------|
| 01 建築概要 | 所在地: 愛知県刈谷市豊田1丁目1番地 | ○ |
| 02 建築面積 | 13,119.16㎡ | ○ |
| 03 延床面積 | 33,277.89㎡ | ○ |
| 04 建築費 | 約 100億円 | ○ |
| 05 竣工 | 2023年12月 | ○ |
| 06 建築賞 | 国土交通省 省CO ₂ 先導型建築物等先導事業(省CO ₂ 先導型)採択 | ○ |
| 07 環境性能 | BEE値: 5.0 | ○ |
| 08 省エネルギー | 436MJ/m ² /年 | ○ |
| 09 省CO ₂ | 75.8%削減 | ○ |
| 10 省水 | 71%削減 | ○ |
| 11 省廃棄物 | 75%削減 | ○ |
| 12 省CO ₂ | 75.8%削減 | ○ |
| 13 省CO ₂ | 75.8%削減 | ○ |
| 14 省CO ₂ | 75.8%削減 | ○ |
| 15 省CO ₂ | 75.8%削減 | ○ |
| 16 省CO ₂ | 75.8%削減 | ○ |
| 17 省CO ₂ | 75.8%削減 | ○ |
| 18 省CO ₂ | 75.8%削減 | ○ |
| 19 省CO ₂ | 75.8%削減 | ○ |
| 20 省CO ₂ | 75.8%削減 | ○ |
| 21 省CO ₂ | 75.8%削減 | ○ |
| 22 省CO ₂ | 75.8%削減 | ○ |
| 23 省CO ₂ | 75.8%削減 | ○ |
| 24 省CO ₂ | 75.8%削減 | ○ |
| 25 省CO ₂ | 75.8%削減 | ○ |
| 26 省CO ₂ | 75.8%削減 | ○ |
| 27 省CO ₂ | 75.8%削減 | ○ |
| 28 省CO ₂ | 75.8%削減 | ○ |
| 29 省CO ₂ | 75.8%削減 | ○ |
| 30 省CO ₂ | 75.8%削減 | ○ |